

大字 米田

明治八年八月大沼郡従来百六十一ヶ村の内九十四ヶ村を併合して三十七ヶ村となす。内十七ヶ村は元通り、三十七ヶ村は併合の分合、百四ヶ村となれり。
(大沼郡誌)

この併合による区割りにより、根岸中田村と米沢村が合併になり米田村となる。更に明治二十一年の市町村制が公布、翌二十二年これが実施となり、村名の改称があり旧村名が大字名となった。

根岸(米田 甲)

根岸は単に長尾山の麓の根岸という意味にも軽く考えられると、新鶴村誌に書かれているが、地名の由来は不明。

堂前・堂後

御堂に因んで前・後と名付けられた。

北原

集落の北、山麓の裾。

山ノ下

北原の下に当り、長尾山の峰に当り根岸の地名の意味にも山ノ下と名付けられた。

村南

集落南道路下。

水神

水神の祠があるところから名付けられる。

●遺跡 水神跡遺跡 奈良・平安時期

桑園

吹上公園下一帯、昔養蚕の桑畑に因み名付けられた。

吹上 下

昔此地一帯は風を吹上げたので名付けられた。

今でも風の吹上げの強い所。

竹花

昔竹林が多く、竹の花を見ることが出来たのに因み名付けられる。

北砂田・南砂田

集落の北に当り、山ノ下立行事稻荷神社街道下にて砂田で水持ちが悪いため名付けられる。

北山ノ下・南山ノ下

長尾山山麓の根岸集落北に当り、山の下に因み名付けられる。